

「ONE TEAM “チーム秋穂”」



山口市新人体育大会終了

秋穂中 HP
QRコード



秋穂中 TEL
083-984-2114



臥薪嘗胆（がしんしょうたん）

9月14日（土）、15日（日）に、山口市新人体育大会が行われました。この大会は、10月に行われる県新人体育大会の予選を兼ねており、また、新チームにとって、夏休みの成果を試す絶好の機会となりました。

結果は、女子バスケットボール、サッカー部、男女ソフトテニス部ともに、県新人大会の出場権を獲得できませんでした。が、卓球部（臨時部）の1年生の安光君が、個人戦で7位に入賞し、出場権を獲得しました。

私は、すべての会場を回り、応援をしました。が、なかなか思いどおりの結果にならず、悔しい思いで見えていました。しかし、一番悔しい思いをしたのは、生徒達だと思います。

タイトルの「臥薪嘗胆」（がしんしょうたん）は、中国のB.C5C頃の、戦国時代の国同士の戦いからできた故事成語で

あり、直訳すると「生肝を舐め、薪の上で寝る」で、意識すると「敗れた国が、復讐のために軍を鍛え直し、次の戦いに備える」という意味になります。

悔しい思いをした生徒達には、「絶対に、山口市春季体育大会では借りを返す」という強い思いを胸に、臥薪嘗胆の気持ちで、秋・冬に自分自身を徹底的に鍛えてほしいと思います。部活動で鍛えた心技体は、必ず、学習面をはじめ、多方面で良い影響が出ます。春に心身ともに成長した生徒達を見ることを楽しみにしています。

言葉の力

前回の学校だよりで、元智弁和歌山高校野球部監督の高嶋監督を例として、勝負の世界で子ども達を強くするために、時には厳しく指導することも大切という話をしました。これについては、異論はないのですが、指導する中で、指導者がど

ういった言葉がけをするのか、このことはとても重要になってきます。高嶋監督は、「ほめるだけはいかん。叱ることも必要」とおっしゃっています。

「叱咤激励」という言葉があるように、両方をうまく使い分けることが重要になってきます。指導者の言葉一つで、子どもを伸ばすこともできれば、逆に子どもを傷つけてしまうことにもなります。言葉には、大きな力があり、我々教員はもちろん、保護者の皆様にもぜひ一度言葉について考えてほしいと思います、今回、一人の人物、著書を紹介したいと思います。

子どもが育つ魔法の言葉 ドロシー・ロー・ノフト

ドロシー・ロー・ノフトさん（女性、アメリカ人）は、1924年生まれ、2005年死去。教育家、カウンセラー。40年以上にわたって家庭教育についての授業や講義を行い、家庭

教育の子育てコンサルタントを務めた方で、世界的ベストセラー「子供が育つ魔法の言葉」の著者でもあります。この本は、現在の天皇陛下が、愛子様の何歳の誕生日での記者会見で、この本の中にある詩を読まれたことで有名になりました。彼女は、後にインタビューの中で、この詩について、「これほど、世界中の人に読まれるとは思いませんでした。ただ私は、この詩で親御さんたちの悩みに答えたいと思い、どんな親になつたらいいのか、その答えをこの詩に託しました。子どもは、親を手本として育ちます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力をもつのです。私はそれを表現したかったのです。」と答えられています。その詩が、下の「子は親の鏡」です。我々教員とすれば、「生徒は教員の鏡」と置き換えて読むと大変勉強になります。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
とげとげした家庭に育つと、子どもは乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言っていると、子どもはみじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもはやさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる